

委員長 休憩を解いて再開いたします。 (11時25分)

86ページの民生費から117ページの衛生費までの審査を行います。御質問のある委員は挙手をお願いいたします。ないですか。

齋藤委員 113ページ、何ですか、これ、超小型EV車レンタル料。これ、たしか買ったほうが安いんだけど、借りないと補助金の問題でということやられたと思うけど、この辺、ちょっと余り町で見ないんですけど、この辺の使用状況はどうなってるんですか。

環境上下水道課課長補佐 こちらのほう、クールチョイス啓発事業に関連してレンタルいたしまして、2月でリースがもう切れましたので返却しております。

委員長 よろしいですか。

齋藤委員 わかりました。

委員長 ほかに。

田代委員 98ページ、99ページをお願いします。児童福祉総務費です。右側の一番下のほうですね、委託料、3つ目です。子育て支援センター・ファミリーサポート事業委託料1,243万800円ということで、これについて若干お聞かせ願いたいと思います。子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、非常に好評ということで、特にファミサポは年々ふえてるといふような事業成果を伺っています。そこでまず1点目が、29年の実績ですね。延命寺前とさくら保育園が新たに加わってると思うんですけども、この利用人数ですか、それとファミサポの利用人数。

あともう1点が、過去5年ぐらいでどういった動きになっているのかなど。ファミサポは非常に人気があってふえてるといふような話は聞いてるんですけど、数字でどのような動きが、この四、五年ぐらいでいいです、動いてるかということですか。

3点目に、なぜここの質問をさせていただいたかといいますと、輝く女性のコンパクトシティということで、今、政策推進課で土木事務所のほうに、旧土木事務所のほうにこの子育て支援センターとファミサポを移したいと。駐車場もかなり広いので利活用がよくなるだろうといふような話、提案をいただきます。このことに関する所管課のお考え、メリット・デメリット等について、

3点お伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

子育て健康課係長

ただいまいただきました質問のまず1つ目ですけれども、ファミリーサポート事業の実績についてお答えさせていただきたいかと思えます。ちょっと手元にある資料につきまして、ちょっと3年分ということですので、3年分のお答えをさせていただきます。28年度につきましては、依頼会員と支援会員、両方会員と3種目あるんですけれども、合計で355となります。続きまして…失礼しました。今のは27年度の数字になります。続きまして28年度ですけれども、こちら3つを合わせまして372となります。最後にですね、29年度の実績ですけれども、こちらについても395となります。年々少しずつですけれども、増加している傾向でございます。

2点目のですね、今度は子育て支援センターについての御質問についてでございます。子育て支援センターですけれども、こちらの役場のすぐ近く、延命寺の向かい側にある直轄のセンターのほうにございます。そちらについてですね、まず30年度の実績について先にお話しさせていただきます。30年度につきましては、8月現在…失礼しました。7月末までの4、5、6、7の4カ月の数字でございますけれども、現状で2,394の方が来園のほうをされているところでございます。続きまして、昨年の、29年の同月比で比べさせていただきたいかと思えます。29年の7月までの人数につきましては2,217人でございます。割合でいきますと約7.9%増加しているところでございます。参考までにですね、29年度の子育て支援センターの年間の合計数ですけれども、そちらは6,142でございます。

続きまして、この4月からですね、さくら保育園の園内のほうにですね、子育て支援センターの「すこやか」のほうができております。こちらについてですね、現状ちょっと資料のほうをいただいているのが、4から8月までの5カ月分の人数でございます。こちらについてですね、来園の人数については481です。

続いてですね、3点目にですね、メリット・デメリットについての御質問がございました。まずですね、松田のですね、延命寺の向かい側のところにつきましては、駐車場についてですね、今4から5台ほどしかとまれないという

ところがございます。またですね、外で遊ぶとなりますと、ちょっと車の通りも多いところもございますので、そういったところについてですね、デメリットとして挙げられるのかなというふうに考えているところでございます。以上でございます。

田代委員　　まず1点が、延命寺の前の、29年度はお話で6,142なんですけども、28年、29年、この利用者をお願いしたいと思います。

それと、あとはファミサポのほうで、3件の合計で、そのもう一度内訳、3種類の合計のうち、お子さんの人数、支援する人の人数、あともう一つちょっと聞き逃してしまったんですけども、その辺についてお願いしたいと思います。

子育て健康課係長　　最初にちょっと2つ目の質問からお答えさせていただきます。27年の依頼会員について234。

田代委員　　依頼会員ね。

子育て健康課係長　　はい。お子様を預けるということです。2つ目がですね、支援会員でございます。そちらが67でございます。最後にですね、両方会員、要は預けることも預かることもできる。

田代委員　　そうか、両方か。わかった、わかった。

子育て健康課係長　　そちらが54でございます。それを3つ合わせますと355になります。同じようにですね、28年度が、依頼会員が257、支援会員が70、両方会員が45で合計372。最後にですね、29年度、依頼会員が270、支援会員が75、両方会員が50、合わせて395という数字になります。

田代委員　　延命寺前の利用人数、子育て支援センターの、28、27。

子育て健康課係長　　27年度については、すいません、ちょっと資料のほうは今手元にないんですが、28年度につきましては、年間を通じまして6,262名の方が利用のほうをされています。

田代委員　　六千二百幾つですか。

子育て健康課係長　　62になります。

田代委員　　62、はい。

子育て健康課係長　　以上となります。

田代委員　　まず1点が、子育て支援センター、2年のあれはわかるんですけども、28

から29だと若干減ってるんですよ、120人ぐらい。要は少子高齢化の中で子供の数が減ってるからこの支援センターの利用は減少傾向なのか、または横ばいなのか、その傾向について、詳しい数字は結構ですから、この三、四年の傾向について1点お願いしたいと思います。

それと、あと土木事務所に移った場合に、延命寺ですと四、五台しかとまれないという話なんですけども、潜在的な需要として何台ぐらい。逆に松田土木事務所というのはある程度スペースを確保できてるんで、来てるお母様方の状況を見て何台ぐらいの確保が必要なのかな。それと、あと外で遊べない。逆に移った場合に、逆に外で遊べるということなんだと思うんですけども、どういった期待度があるか。あとは、メリットは言われたんですけど、デメリットは何もないのかなというふうに感じるんですけども、その辺についてお答えをお願いします。

子育て健康課係長

まず1点目のですね、支援センターの人数ですけれども、ちょっと私が記憶している限りですと、以前3,000人まで人数が最初、平成14年からスタートしているかと思えますけれども、それぐらいの人数でした。最も多かったのが恐らく27年のときに7,000人をたしか超えてた記憶がございます。それが28、29と少しずつ今減ってきているところではあるかなというところでございます。ただ、先ほど29年の7月と30年の7月で比較しますと7.9%伸びているというところがございましたので、もしかしたら今年度に関してはもうちょっと人数がふえるのではないかなという臆測が立っているところでございます。

2点目のですね、車の台数のお話がございました。ちょっとこれは29年度の数値になりますけれども、1日当たりおよそ11.2人ですかね、が支援センターを利用しているというところがございます。実際来られてる時間帯によってですね、お車でどれだけ来てるかというのは当然出てくるかとは思いますがけれども、5台以上の確保がおよそできれば問題はないのかなというふうに思っているところでございます。

続きまして、3点目のデメリットでございます。まず周知活動のところは当然出てくるかと思えます。もう15年ほど現状の箇所運営のほうをしているところでございますけれども、来年の4月から切りかわるというふうになります

と、当然それがなかなか浸透していかないというふうになりますと、人数に多少は影響が出てくるかというところはデメリットで考えられるかと思います。あとですね、移転先の建物の耐久等についてはですけども、そちらについてもちょっとデメリットがあるのではないかなというふうに考えております。以上です。

田 代 委 員 長 私ども総務文教常任委員会で、この松田土木事務所のファミサポ、支援センターの移転、ある程度委員同士でも話し合ってます。その中で、ある程度広域行政の中で、大井町にも接してる、大井町からもある程度負担金を取って門戸を開いて、あの辺の周辺、かなり区画整理したところとか民間開発されたところで、大井町もかなり人数がいると思います。そういう中で、負担金をいただいてね、少し充実した形でやったらどうかというふうな話も出てます。一方で、今お話のあった5台ぐらいあればいいんだよという考えは、やはり子育て支援センターをある程度充実していく、広域利用という見地からも、今は車の時代ですから、台数はもっと必要なのかなと。たまたま狭いから乗って来ないという人もいると思います。非常に運転が苦手な人は、今の状況ですと狭いと思いますのでね。今回の延命寺前のことをもとに、これから大きく変わろうとしていると思います。その中で、駐車場についても5台ぐらいでいいよ、5台以上あればいいよではなくてね、もうちょっと研究していただいて、当然31年度の予算づけの中でいろいろ出てくると思います。その辺も踏まえた中でお願いします。外遊びについても、やはり充実させるということで、一番やっぱり子育て世帯に重要な施設の一つですので、その辺について、31年度予算編成がね、もうすぐ11月に始まりますのでね、今の意見、私の要望をちょっと入れていただいていた中で御検討を要望して質問は終わりにします。

委 員 長 ほかにございますか。

飯 田 委 員 長 ページ数で109ページですね。がん検診の件なんですけど、私と同年齢あるいは私より若い人がですね、私の近辺で何人かことしもですね、亡くなってます。この、やっぱりがん検診、早期発見、早期治療がやっぱり一番基本だと思うんですけど、町としてですね、このがん検診の受診率を上げるためにどのような努力をなされているのかということをお伺いしたいと思います。

それともう一つ、117ページ、合併処理浄化槽検査費補助金の辺なんですけど、今、町は公共下水で大体九十何%いってると思うんですけど、寄の場合には全然引かれてなくて合併処理槽が中心となるわけなんですけど、寄地区で何件ぐらい今合併処理の件数があるのかということと、あと導入をされてない件数、どのくらいあるのかわかったら教えてください。以上です。

委員長 そうしましたら、最初にがん検診。

子育て健康課係長 議員質問のがん検診の受診率の向上についての取り組みなんですけれども、松田町のほうは、がん検診は、子宮がん、乳がん検診以外は全て集団検診で行っておりまして、集団検診に関しては、特定健康診査と同時実施という形で受けていただくような体制をとっております。特定健康診査のほうの受診率向上のためにも、がん検診を同時実施することで受診率を上げる取り組みとなっておりますけれども、前年度にがん検診を受診している方については、お申し込みがなくてもこちらから受診勧奨という形で対象者には受診票等を送付するような形で対応をしております。子宮がん、乳がん検診に関しては施設検診も実施しておりますので、年間を通じて施設で受診できるように受診券等の送付という形で対応をとらせていただいております。

委員長 すいません、受診率がわかったら。

子育て健康課係長 受診率に関しては、対象年齢によるので、がんそれぞれ受診率というところで見ると12%程度になっています。

飯田委員 そんなことはないでしょう。がんの受診率というか、健康な人でもがんがあるかどうか、そういう受診をしますよね。だから町でやってる健康診断、あの中にもがん検診の項目はかなりありますけど、そういうのを含んで50%は行ってるんじゃないかと思うんですけど。

子育て健康課係長 町での、町のがん検診を受診された方については受診率は出るんですけども、町以外で、例えば人間ドック等でがん検診を受けられている方の人数というところで見ると、そこはこちらでは把握ができない部分があるので、町でのがん検診の受診率とすると十二、三%になります。

飯田委員 私がパソコンでちょっと調べましたらですね、2年以内に会社であろうがどこであろうが、そういうがんに関する検診を受けた人はですね、大体50%とい

う数字が出てるんですね。（「それは全国だよ」の声あり）全国で。それも、年齢もですね、若い人から年寄までのトータル、分母はそういうふうな部分なんです。それで、やっぱり一番大事なのは早く、早期発見して早く治療すればそれだけ保険のね、かかるお金も違いますしね。あともう一つは、もう本当に、自覚症状が本当に出るからでは遅いというふうなことで、きのうの新聞にもがんの3年と5年生存率というのが出てましたけど、やっぱり今言われました乳がん、子宮がん、これが最近すごく3年生存率が、だんだんこう医療技術がね、発達してるんで生存率がどんどん上がってる中でね、一般の人でもどんどん早期に発見できれば、自覚症状がないうちにですね、早期に発見できてステージが早いうちでしたら完治する今確率がすごく高いというふうなことでね、ぜひこの検診をですね、どんどん上げる努力をしてもらいたいと思うんですけど、やっぱり何で、じゃあ受診しない人の理由は何かといいますと、1位がですね、やっぱり時間がないと、そういう検査を受ける時間がないということですね。あと2番目が健康状態に自信があるからがんの検診ね、受けないというふうなことですね。3番目がですね、心配なときはいつでも医療機関に行くことができる、受診することができるからだというふうなことなんです。それで、ちょっとその下あたりはですね、がんの検診を受けてね、がんがわかると怖いから検診を受けないという人も十何%っているんですね。だからぜひそういう人をですね、やっぱり検診のほうに目を向けてもらうためにね、やっぱりいろいろ今言われましたこと以外にですね、検診率を上げるための方策があったらどんどん研究してですね、受診率を上げるようお願いしたいと思います。

委員長 よろしいですか。

飯田委員 それとあと。

委員長 次、合併処理浄化槽の件。

飯田委員 ちょっと待って、今。

委員長 まだありますか。

飯田委員 答えを、合併処理の。

環境上下水道課係長 合併処理浄化槽の件なんですけれども、合併処理浄化槽は126基でございます。その他は670件余りございます。以上でございます。

飯 田 委 員      ここに合併処理浄化槽検査費補助金というのが出てますけど、これは1世帯当たり5,000円のことですかね。5,000円、今町のほうから出てますよね。そのこと、その数字でしょうか。

環境上下水道課係長      そのとおりでございます。これは5,000円の補助金でございます。

飯 田 委 員      そうしますと、126基、今、寄地区に導入されてるという話なんですけど、8万円の補助金ということは16件、16世帯ということですよ。

環境上下水道課係長      はい、そのとおりでございます。

飯 田 委 員      そうしますと、あと110世帯は浄化槽の検査をしてない、あるいは検査をしても町のほうへその補助金の申請の手続をしてないということなんですかね。

環境上下水道課係長      そのとおりでございます。そちらでは16件しか29年度は受けておりません。28年度に関しては22件でございました。以上です。

委 員 長      よろしいですか。

飯 田 委 員      二宮のほうから来てやってる浄化槽の検査ですか、これは。

環境上下水道課係長      そのとおりでございます。

飯 田 委 員      そうしますとね、余りにも検査をしてないね、件数が多いんですけど、町のそういう補助金が出るのをみんな町民は知らないんでしょうかね、寄地区の人は、ほとんどの人が。

環境上下水道課係長      おしらせ号等でPRをしているんですけども、昨年に関しましては10月1日号と3月15日号の年2回行いました。浄化槽の日が10月に指定されてますので、それでまた10月にPRをする予定でございます。

飯 田 委 員      せっかくのこういうふうな補助金制度があるんでね、今、浄化槽の年間、掃除とか何とかいろいろしてもらいますよね。かなり聞くと7万、8万かかっているという話なんですけど、多分あれ見てないんでしょうかね。補助金が出るのを知らない人が多いと思うんで、何か浄化槽処理をね、そういう設備に切りかえたようなところは、どんどんもう少しこういう制度があるよということで、町のほうでも啓蒙というか、やってもらいたいなと思うんですけど、その辺は、おしらせ号以外はやる必要はないとお考えでしょうか。

環境上下水道課長      委員、確かにおっしゃるとおり、寄地区です、合併処理浄化槽を管理さ

れて、補助金の申請する部分、定率になっていると思うんですが、従前であればですね、「広報まつだ」等の媒体でですね、お知らせしたところではございますが、これについてはですね、いわゆる時期ものではございませんので、今後例えば暮らしのガイドにはたしか掲載があったかと思いますが、ホームページ等の電子媒体等についてもPR等をしていきたいというふうに考えております。以上です。

飯 田 委 員 強力にですね、お願いしたいと思います。それとですね、今、あと670件がまだ未導入だと、導入されてないと、合併処理浄化槽をですね。そういうようなところで、寄地区の今後の生活排水処理の事業…事業というか、計画はいかなもののでしょうか。

環境上下水道課長 昨年9月の議会の全協でもお話ししたかと思うんですが、昨年生活排水処理審議会の答申の中で、あくまでも審議会の答申ではございますが、寄地区については、合併処理浄化槽のほうで整備していくよという一つの答申をいただきました。それに基づきましてですね、今後のことにつきましては、いわゆる寄地区の個人設置型ですね、合併処理浄化槽の整備計画を作成することになっております。これにつきましては、当然整備戸数等もございますが、公共下水と合併処理浄化槽の設置費用、維持管理費等を比較した中で、極力ですね、合併処理浄化槽を設置していただける方々についてですね、御負担の軽減が図れるような形で、特に予算的な問題もございますが、県の補助金なんかも導入、検討しながらですね、適切なですね、整備計画を策定して、その中で補助金をどうしていくか、設置費用、衛生費補助金等をですね、どうしていくかという部分、計画をですね、盛り込んでいきたいというふうに考えております。以上です。

飯 田 委 員 整備計画をこれから行うというふうな中で、じゃあ補助金の件も並行して検討していくというふうなことなんですけど、大体それは何年度ぐらいから予定されているのかということはお考えでしょうか。

環境上下水道課長 年度内にやっけていって、30年度内に、今年度内に進めたいと思います。

飯 田 委 員 その場合にですね、松田町は公共下水、寄地区は合併浄化槽というふうに分かれるわけなんですけど、そのときにね、同じ町民でありながら公共下水を使

ってた人はすごく安くて、安くてって比較するとですね、合併浄化槽を使っている人はすごく割高になっちゃうというふうなことがないように、同じ町民ですのでね、同じレベルでおさまるような形でぜひお願いしたいと思いますが、その辺はいかがでしょう。

環境上下水道課長 単純に比較してですね、議員おっしゃる公共下水道と合併処理浄化槽を設置した場合は、合併浄化槽の設置のほうが割高になるというふうなことでございますが、先ほど申したとおりですね、できるだけ補助金等を導入した中で、皆さんの御理解をいただけるような計画をつくりたいと思います。

飯 田 委 員 なるべくですね、やっぱりできれば同一水準に近づけられるような形での導入をお願いしたいと思います。終わります。

委 員 長 ほかにございませんか。

(「ありません」の声あり)

じゃあ、ないようですので、これで終了いたします。

暫時休憩いたします。この休憩の間に昼食をとっていただきまして、1時から再開いたします。次は農林水産業費から土木費までを行いますので、よろしくをお願いいたします。 (11時55分)